

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地				
専修学校インターナショナルデザインアカデミー		平成4年3月25日	成底 敏	〒 901-2131 (住所) 沖縄県浦添市牧港1丁目60番地の14 (電話) 098-942-6780				
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人KBC学園		平成6年3月14日	大城 圭永	〒 900-0025 (住所) 沖縄県那覇市壺川3-5-3 (電話) 098-835-4240				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	文化教養専門課程	デザイン専攻科 ファッションコース	平成 7(1995)年度	-	平成26(2014)年度			
学科の目的	あらゆるデザイン分野に共通する「発想力」「想像力」「表現力」を養い、デザインを通して新たな価値を創造することで産業を活性化する人材を育成することを目的とする。また、デザイン思考から得られる課題発見能力、課題解決能力と、専門的かつ、実践的な技術・技能を身につけることでデザインの実務に即した人材を育成することを目的とする							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能な資格・検定:ファッション販売能力検定、ファッションビジネス能力検定、パターンメイキング技術検定、色彩士検定 中退率:27%							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,803 単位時間 単位	468 単位時間 単位	621 単位時間 単位	714 単位時間 単位	0 単位時間 単位	0 単位時間 単位	
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)					
114 人の内数	11 人	0 人	0 %					
就職等の状況	■卒業者数(C) : 4 人 ■就職希望者数(D) : 4 人 ■就職者数(E) : 3 人 ■地元就職者数(F) : 2 人 ■就職率(E/D) : 75 % ■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 67 % ■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 75 % ■進学者数 : 人 ■その他 : 人 (令和 5 年度卒業者に関する令和 6 年 5 月 1 日時点の情報) ■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 株式会社 日進商会、加茂商事 株式会社							
	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載 0 評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL							
	当該学科のホームページURL	<a href="https://www.ida.ac.jp/">https://www.ida.ac.jp/</a>						
	企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
		総授業時数		1,803 単位時間				
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		171 単位時間				
		うち企業等と連携した演習の授業時数		単位時間				
		うち必修授業時数		1,803 単位時間				
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		171 単位時間				
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位時間				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位時間						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		1 人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1 人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		人					
	計		2 人					
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		2 人						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ①教育課程編成委員は、グラフィックデザイナーや雑誌編集者及び広告関連協会などの専門的知見を有する業界団体等の役職員から選任する
- ②卒業生の主な就業先であるデザイン事務所・広告代理店(映像編集・Web制作・マスメディア制作)の企業様と連携して教育課程の編成を行う事により、専門かつ実践的な知識・技術を習得した即戦力となる人材を育成する。
- ③専門分野における履修の中心となるビジュアルPC制作スキル、コピーライティング、雑誌、映像等の教育内容に関して、教育課程編成委員会を通じて常に業界の最新情報を反映させる。
- ④上記①、②により編成された授業科目、内容が実践習得されているかどうかを、教育課程編成委員会による実践的視点で評価を受け、課題を浮き彫りにする事で教育の質の確保、更なる教育の質向上に活用する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- ①学校管理運営規程の(委員会等の設置)第3条に教育課程編成委員会の設置が位置付けられており、教育課程は、教育課程編成委員会に諮り、学科の目標に照らして校長が編成する。
- ②教育課程編成委員は、委員長(教務責任者)・学科責任者が参加することにより、企業等から提示された意見や提言を速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、授業方法・内容等)の編成に反映させることができる。学校の専門分野に対して業界関係者や企業の方々の実務に関する知識、技術などから意見交換を行う場として教育課程編成委員会を学校長の下に位置付ける。また6月の第1回目の委員会を前年度のカリキュラム見直しについて精査し、今年度のカリキュラム進行の確認と修正点を探る。その後、10月の第2回目の委員会では前期の振り返りを通し改正点、ならびに次年度に取り組むべき内容に関して審議する。
- ③教育課程編成委員により、企業等から提示された意見は11月から2月にかけて定期的なカリキュラム編成会議において速やかに次年度以降の教育課程(授業科目、授業方法・内容等)に検討し、反映される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
嘉数 久代	アパレル沖縄生産協同組合	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	①
棚原 竜也	LIFEDESIGN&COMMUNICATIONS(合)	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	③
前川 潤平	インターナショナルデザインアカデミー 教務部	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	—
福地 あゆみ	インターナショナルデザインアカデミー 教務部	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年6月30日(金) 14:00～16:00

第2回 令和5年10月20日(金) 14:00～16:15

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

アパレル業界において、技術者の育成は課題になっており、専門学校での技術習得は、とても大事であることを改めて意見としていただいたことから、造形授業の構成を改善した。また、社会で働く事を意識できるよう、卒業生が多く活躍する企業へ依頼し、工場見学を再度導入。授業内でコミュニケーション力の向上を図る為、専攻学科・コース・学年が交わり、関わりが持てるようカリキュラムを構築した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ファッション業界における職業人(服飾造形、ファッションビジネス、販売実務に精通する人材)として必要な知識・技能を習得するために、実習・演習の授業内容、手法に関して業界の専門的知見を有する企業等と連携し、実践的なカリキュラムや教材の作成および指導力の向上につなげる。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

上記方針を実現するために、ファッション業界における専門的知見を有する企業等から職員を講師として迎える。市場リサーチからターゲットへの提案を意識した商品企画、販売を通して市場へでる商品の縫製向上を意識した制作を行う。また、学生自身のブランドを企画し、世界観を表現する為の作品制作を行う。市場ターゲット・自身のブランド企画、それぞれの制作を通して、リサーチ力や提案方法・技術を習得する。連携企業側の評価に関しては学生個々の感性が時代性を考慮したデザインと技術で表現されているかを軸とした評価を担当講師にて行う。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
VMD(1年・2年合同)	企業研修資料を配布して授業を行う。売り場を想定した演習を、課題をもとに行う。最終日に県内商業施設にて、現場実技研修を実施。現地スタッフとチームを組み、売り場を構築する。	有限会社ヴィーナス ZOW事業部
CAD(1年次)	アパレルCADソフトの基本的な使い方を習得する。(スキャン・データ作成方法・プロットの使い方)前期造形授業の、各アイテム基本製図の復習を行う。ピンワークを中心にトータル作成と確認を行う。	Quiet Design Sudio
CAD(2年次)	アパレルCADソフトを活用し、基本的な使い方を復習し、習得する。(スキャン・データ作成方法・プロットの使い方)ピンワークを中心にトータル作成と確認を行う。細部を含めた、パターン修正ができるようになる。	Quiet Design Sudio

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にしていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教職員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識をもち、指導スキルを身につけなければならない。そのために下記の通り教員研修環境を整える。

- ①教育課程編成委員会に参画する企業等から講師を招いた実践的な知識・指導スキル研修。
- ②県などの公共事業によるセミナーなどの参加。(自己啓発)
- ③学内に設置される附帯教育講座を利用した自己啓発。
- ④学校法人KBC学園教職員研修規程 第4条、第5条に基づき必要な知識技術の研修を実施する。

上記研修を開催期間など考慮して、4月の年度初めまでに年間受講スケジュールを計画的に組み立て、受講している

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	CREACOMPO II ~Ver. 8.2~ 体験会	連携企業等:	東レACS株式会社
期間:	2023年6月22日(木) 午後の部(14:30~15:30)	対象:	デザイン専攻科職員
内容	アパレルCADシステム「クリアコンポII」最新Ver. 8.2を使って、パターンメイキングソフト「パターンマジックII」の操作を体験と質疑応答。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	キャリア・サポーター養成講座	連携企業等:	専門学校YICグループ
期間:	令和5年8月16日(水)~18日(金)	対象:	教務部職員
内容	学生が自分自身のキャリアを主体的に設計・選択・決定できるよう支援するため、教職員として身に付けるべきマインドを養成する		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	業務効率向上のための生成AIツールを活用したスキル習得講座	連携企業等:	NTTドコモ/STスマイル
期間:	令和6年9月2日(月)～3日(火)	対象:	デザイン専攻科職員
内容:	生成AIを使って授業準備や学生支援の業務を効率化する方法を実践的に理解する		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	発達障がい理解と特性に応じた関わり方について	連携企業等:	(一社)沖縄県専修学校各種学校協会
期間:	令和6年5月17日(金)	対象:	教務部職員
内容:	発達障害の全体対応から個別対応の関わり方について学ぶ。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

当校の教育理念は、高度な技能技術を身に付け、人間性豊かな永久戦力となる人材を育成する事である。この教育理念に基づき実践的な教育が実現できているか、また、その教育を実現する為に必要な環境が整っているかについて、学校関係者評価委員会を設置して下記に示す評価項目から評価する。評価結果については、学校長を通じて即座に次年度の学校運営に反映させる。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 教育理念・育成する人材像が、「学生の手引き」に記載されているか</li> <li>② 教育理念・育成する人材像が、教職員手帳等に記載されているか</li> <li>③ 教育理念・育成する人材像が、HP、パンフレット・募集要項等に記載されているか</li> <li>④ 各学科の修業期間における教育事業計画が文書化され、提示されているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 年度予算、中期計画が策定されているか</li> <li>② 予算は計画に従って妥当に執行されているか、定期的に確認しているか</li> <li>③ 理事会・評議委員会が定期的に開催されているか</li> <li>④ 運営会議が定期的に開催されているか</li> <li>⑤ 人事考課制度は文書化されているか</li> <li>⑥ 賃金制度は文書化されているか</li> <li>⑦ 採用制度は文書化されているか</li> <li>⑧ 勤務管理が適正にされているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 教育理念の達成に向けた修業年限分のカリキュラムが文書化されているか</li> <li>② カリキュラム作成の為にカリキュラム作成委員会があるか</li> <li>③ カリキュラムを作成するに当たり、業界関係者等の外部関係者の意見を取り入れているか</li> <li>④ シラバス或いは講義要項等が作成されているか</li> <li>⑤ 学生によるアンケート等による授業評価が定期的に行われているか</li> <li>⑥ 授業改善のための組織的取組が行われているか</li> <li>⑦ 企業・施設等での職場実習があるか</li> <li>⑧ キャリア教育等を行っているか</li> <li>⑨ ビジネス教育を行っているか</li> <li>⑩ コミュニケーション能力の向上に向けた取組を行っているか</li> <li>⑪ 専門性や指導力等の向上のための外部研修・研究へ派遣しているか</li> <li>⑫ 教員の資質の向上の為に、自己啓発への支援をしているか</li> <li>⑬ 非常勤講師との定期的な情報共有の為にミーティング等を開催しているか。および非常勤講師からの報告書等が提出されているか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 就職に関する目標を設定したか</li> <li>② 就職に関する目標は教職員に共有されているか</li> <li>③ 就職活動に関する記録がなされているか</li> <li>④ 学生の就職結果に関して検証・報告がされたか</li> <li>⑤ 資格・検定・コンペに関する目標を設定したか</li> <li>⑥ 資格・検定・コンペに関する目標・計画が教職員に共有されているか</li> <li>⑦ 資格・検定・コンペ結果に関して検証・報告がされたか</li> <li>⑧ 進級率の目標を設定しているか</li> <li>⑨ 進級率に関する目標・計画が教職員に共有されているか</li> <li>⑩ 退学結果に関して検証・報告がされたか</li> </ul>

(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>①担任による面談が定期的に行われているか</li> <li>②担任は、適切に配置されているか</li> <li>③学生のメンタルヘルスについて相談できる窓口が整備されているか</li> <li>④学生指導に関する教職員の相談に応じる体制があり、周知されているか</li> <li>⑤学生の面談・相談記録があるか</li> <li>⑥定期的に健康診断を行っているか</li> <li>⑦奨学金制度等の経済的支援があるか</li> <li>⑧保護者との計画的な相談会・面談を行っているか</li> <li>⑨卒業生の会(同窓会等)はあるか</li> <li>⑩卒業生への職業紹介をしているか</li> <li>⑪卒業生の就業状況把握の為に定期的な取り組みを行っているか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>①組織図はあるか</li> <li>②学校の年間スケジュールはあるか</li> <li>③図書室・図書コーナー等があるか</li> <li>④キャリアサポートを行う就職支援室・支援コーナー等があるか</li> <li>⑤喫煙に関する規定が文書化・提示されているか</li> <li>⑥環境エコ活動に関する規定が文書化・掲示されているか</li> <li>⑦学内の整理・整頓・清掃に関する規定が文書化されているかまた定期的に管理、チェックがされているか</li> <li>⑧学内外実習時の安全対策に関して文書化されているか</li> <li>⑨学校生活において保険に加入しているか</li> <li>⑩防災対策に対して文書化・組織化されているか</li> <li>⑪防災訓練・研修が定期的の実施されているか</li> <li>⑫教育設備・備品等が定期的に管理・点検されているか</li> </ul>
(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校案内等に目指す資格・検定・コンペが明示されているか</li> <li>②資格・検定・コンペの結果(合格者数・合格率)を公表しているか</li> <li>③学校案内等に学費・教材費・選抜方法等が明示されているか</li> <li>④パンフレット、HP等において就職実績を公表しているか</li> <li>⑤入学に関する問い合わせ等に適切に対応できる体制が出来ているか</li> <li>⑥学校説明会等による情報提供を行っているか</li> <li>⑦入学者に対し学習、学生生活の為にオリエンテーションが行われているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>①会計監査の結果報告が文書等にて明確化されているか</li> <li>②私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか</li> <li>③備品及び車両に関する管理規定が文書化・管理されているか</li> <li>④物品購入等における複数業者からの確認がされているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>①個人情報保護規定が文書化されているか</li> <li>②セクシャルハラスメントに関する規定が文書化されているか</li> <li>③施設設備の保守・管理が定期的に行われているか</li> <li>④防災・防犯設備(非常灯・消火器・警備システム等)が整備・点検されているか</li> <li>⑤教職員の健康診断がされているか</li> <li>⑥自己点検・評価の為に運用ルールが文書化されているか</li> <li>⑦自己点検・評価の組織があるか</li> <li>⑧自己点検・評価の必要性を全教職員に伝える機会を設けたか</li> <li>⑨自己点検・評価の結果を全教職員で共有する機会を設けたか。結果に基づき計画的に改善を実施しているか</li> <li>⑩自己点検・評価報告書があるか。公表されているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>①社会的活動(地域活動・地域貢献・ボランティア活動等)を実施しているか</li> <li>②教育資源を地域社会に提供しているか</li> <li>③社会的活動(地域活動・地域貢献・ボランティア活動等)を奨励・支援しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

企業への有用な人材として大切なことの一つとして「たくさんを知りたい」というポジティブな人材を育成して欲しいという要望を受け、指示待ち学生をどのように能動的に育成できるか検討を行った。なかでもデザインコンペをはじめとするデザインイベントで、様々な方々と接触する機会を作り、接客を通して社会を知る一助として授業を構築した。またチームの中で自分の役割や発言力が増す機会を増やしてほしいという意見に対して、「デザイン思考」という授業を全学年で導入し個の発言により、チームの全体の力を発揮する授業を構築した

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
長内 聡	沖縄県立那覇工業高校	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	高校関係者
洲鎌 朝平	在校生保護者	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	保護者
伊敷 恭佑	マンゴハウス	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業委員グラフィックデザイン分野
宮國 裕乃	SUBAKO DESIGN	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業委員デジタルデザイン分野
中山 法夫	ちゅらっぷす株式会社	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業委員マンガ分野
安座間 亮太	VINTAGE & USED CLOTHING DIGDAG	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業委員ファッション分野
儀間 清美	Design studio AO	令和6年4月1日～ 令和8年3月31日(2年)	企業委員インテリア建築分野

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.ida.ac.jp/information/public/>

公表時期: 令和6年6月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ① 実践的な学習における成果を広く周知することにより、入学希望者の適切な学習機会の選択に資する事
- ② 学校関係者評価結果も含めて教育活動の状況や課題等学校全体に関する情報を分かり易く示す事。
- ③ 上記①・②により企業等との連携による教育活動改善を活発にし、社会全体の信頼につなげていく事。
- ④ 情報の公開を通じて学校の教育の質の確保と向上を図る事を目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	①学校の沿革 ②特色 ③所在地、連絡先
(2) 各学科等の教育	①収容定員 ②カリキュラム、③目指す検定・公募・コンテスト ④検定・公募・コンテスト実績 ⑤就職状況
(3) 教職員	各学科の担当教員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取り組み状況
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事
(6) 学生の生活支援	在校生の声
(7) 学生納付金・修学支援	①学生納付金 ②奨学金等の紹介
(8) 学校の財務	学園の財務状況公開
(9) 学校評価	自己点検・学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: <https://www.ida.ac.jp/information/public/>

公表時期: 令和6年6月1日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 デザイン専攻科ファッションコース)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			素材知識	F販売能力検定内容より抜粋。検定を視野に入れ、基礎知識を理解する。できるだけ多くの素材に触れる。実験や実習ワークを取り入れ、用語などを覚える。造形にもつながる内容を理解する。	1前	18		△	○		○		○	
2	○			モード史	服装史テキストを活用しプリントワーク学習。歴史背景を理解しながらその時代の服飾文化を知る。グループワークで協力し調べ学習を行う。	1前	15		○			○		○	
3	○			色彩学Ⅰ	色彩に関わる職業に求められる知識・技能を身につける。	1前	93		○	△		○		○	
4	○			ファッション販売論	ファッション販売能力検定3級 取得・テキストを活用し、アパレル業界の成り立ちを学ぶ。座学的知識では止まらず、日常から専門用語を意識し使用する。学ぶ知識を他の授業でも応用する。	1前	72		○			○		○	
5	○			モデリズム(服飾造形実技基礎)	スカート、パンツ制作を通して、縫製の基礎を習得する。ミシン、洋裁道具の使用方法を習得する。デザイン発想を具現化する楽しさ、難しさを考察する。	1前	108				○	○		○	
6	○			パターンメイキング	洋服の作りを、理論/実技両方の面で学ぶ。過去問を課題に、授業で回答/解説を中心に行う。シャツ/ブラウスの作りを理解する。	1後	111		△	△	○	○		○	
7	○			VMD	企業研修資料を配布して授業を行う。売り場を想定した演習を、課題をもとに行う。最終日に県内商業施設にて、現場実技研修を実施。現地スタッフとチームを組み、売り場を構築する。	1前	24				○	○	○	○	○
8	○			マーケティングリサーチ	リサーチ、分析に特化した授業。アパレル業界と流行をリサーチ、分析し独自で動向を読み取る	1前	33		○			○		○	
9	○			ファッションショー企画・イベント	様々なデザイナーのコレクションやVTRや展示会を見て、新しいショーのあり方を考える。役割分担を行い、自分の立場に使命感と責任をもって遂行する。	1後	147			○	△	○	○	○	
10	○			ファッションビジネス	トレンドを意識し形にとらわれずオリジナリティ溢れるブランドを生み出す。内容に沿った資料の作成、店舗リサーチを行い情報収集・分析を行う。伝える事を意識したプレゼンを行う。	1前	57		○		△	○		○	
11	○			ファッションエレメント	ファッションアイテムに関する要素を幅広く学ぶ。小物制作を通して、ミシンなどの洋裁道具、パターン用具の扱いを身につける。	1通	63			○	△	○		○	
12	○			CAD	アパレルCADソフトの基本的な使い方を習得する。(スキャン・データ作成方法・プロットの使い方)前期造形授業の、各アイテム基本製図の復習を行う。ピンワークを中心にトータル作成と確認を行う。	1後	33				○	○		○	○

(文化教養専門課程 デザイン専攻科ファッションコース)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
13	○			デザイン思考	デザイン思考を認識する。 他分野・同分野の意見を取り入れ物事の考え方や考えるプロセスを考察する。 他の意見の価値を認める。	1通	63		△	○	△	○	○	○	○	
14	○			総合学習 1	「組織」の中でやりがいや目標などを立てる方法などを身につける。「人」としての「在り方」を考えて人生の中で「幸せ」を築く方法を身につける。ジャンルの垣根を超えて、立ち位置を認識する。専攻する分野・ジャンルの垣根を超えてを目指すべき分野を見定める。	1前	48		○			○		○	○	
15	○			就職実務 1	就職活動を見越した面接練習、履歴書の書き方、ポートフォリオ作成を学ぶ。	1後	48		△	○		○		○	○	
16	○			志学Ⅱ／就職実務	・KBC学園の教育理念に掲げられた「人財」を目指し、人間性を磨き各自の「志」をたてるために「学生クレド」について理解を深め、望ましい価値観や考え方を身に付ける ・企業説明や卒業生及びゲストの講話を通して、働くことへの行動と意識に繋げる。	2通	90		△	○		○		○	○	
17	○			ファッションショー企画・イベント	・様々なデザイナーのコレクションやVTRや展示会を見て、新しいショーのあり方を考える。役割分担を行い、自分の立場に使命感と責任をもって遂行する。	2後	123			○	△	○	○	○	○	
18	○			グラフィックデザイン	illustrator及びphotoshopの基本操作の振り返りを行ない、応用レベルまでのスキルアップアップを目標とする。	2前	57		△		○	○			○	
19	○			ファッション色彩	講義では、黒板での板書が主。一部映像資料。配色カードをメインとした実習を展開、その他配色演習としてコピックマーカーを利用したアナログ演習と実際の配色例を参考に配色効果を理解する	2後	51		○			○			○	
20	○			デザイン画	ファッション画に必要な知識と技術(コントラポスト、ポージングカット、服装の形の取り方、描き方)の習得と応用レベルまでのスキルアップアップを目標とする。	2前	57		△		○	○			○	
21	○			VMD	企業研修資料を配布して授業を行う。売り場を想定した演習を、課題をもとに行う。最終日に県内商業施設にて、現場実技研修を実施。現地スタッフとチームを組み、売り場を構築する。	2前	24				○	○	○	○	○	○
22	○			ファッションエレメント	ファッションアイテムに関する要素を幅広く学ぶ。デザインコンブに向け、各自の世界感を表現できる小物を制作する。自分の世界観にあった方法や技術を、収集して活用する。	2通	33			△	○	○			○	
23	○			服飾造形応用	ジャケット(JK)の基礎として、テーラードJKを、パターンから学ぶ。(1/2使用) 卒業制作につながる、オリジナルJKのデザイン提案から、制作までを行う。	2前	54				○	○			○	
24	○			卒業制作	卒業制作として、他者に向け提案するオリジナルを企画。制作を通して、作品の応用を学び・実践する。デザインコンブでのオリジナルブランドを企画・制作・FS形式での発表を行う。	2後	66			△	○	○	○	○		

(文化教養専門課程 デザイン専攻科ファッションコース)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
25	○			CAD	アパレルCADソフトを活用し、基本的な使い方を復習し、習得する。(スキャン・データ作成方法・プロットの使い方)ピンワークを中心にトワル作成と確認を行う。細部を含めた、パターン修正ができるようになる。	2前	114			○	○				○	○
26	○			FB論	座学的知識では止まらず、日常から専門用語を意識し、活用する。ファッションビジネス用語を他の授業でも応用する	2前	75		○	△		○		○		
27	○			デザイン思考	デザイン思考を認識する。他分野・同分野の意見を取り入れ物事の考え方や考えるプロセスを考察する。他の意見の価値を認める。	2通	69		△	○	△	○	○	○	○	
28	○			現代モード史	卒業制作として、他者に向け提案するオリジナルを企画。制作を通して、作品の応用を学び・実践するデザインコンプでのオリジナルブランドを企画・制作・FS形式での発表を行う。	2前	33				○	○	○	○		
29	○			総合学習 2	進級後のオリエンテーションインターンシップ報告会の実施、新入生との交流を含む兄弟学級交流会の実施	2前	24		○			○		○	○	
合計						29	科目	1,803 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<b>卒業要件：</b> 本校に在学し、下記に定める授業出席率以上履修し、かつ、その該当する所定の授業科目について各学年末における試験ならびに課題を提出後に合格し、卒業資格を得た者は、卒業証書を授与する。 (1) 授業課題提出率100%かつ修了制作、卒業制作を提出し、各科目の90%以上の出席をもって卒業とする	1 学年の学期区分	2 期
<b>履修方法：</b> (試験) 1. 学業成績は、授業科目ごとに行う試験ならびに課題提出によってこれを定める。ただし、授業科目によってはその他の方法で査定することができる。 2. 試験には定期試験、再試験および追試験、課題再提出等がある。再試験はやむを得ない事故等により定期試験を受けなかった者に対して行い、追試験は受験の結果、不合格となった者のため、課題再提出は作品基準を満たさない場合にこれを行う。 3. 再試験および追試験、課題再提出は本校において必要と認めるときに限り、これを行う。 (学業成績) 学業成績の判定はA、B、C、Dの4種をもってこれを表し、Aは80点以上、Bは60点以上、Cは50点以上、Dは49点以下とし、A、B、Cは合格、Dは不合格とする。	1 学期の授業期間	24 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。